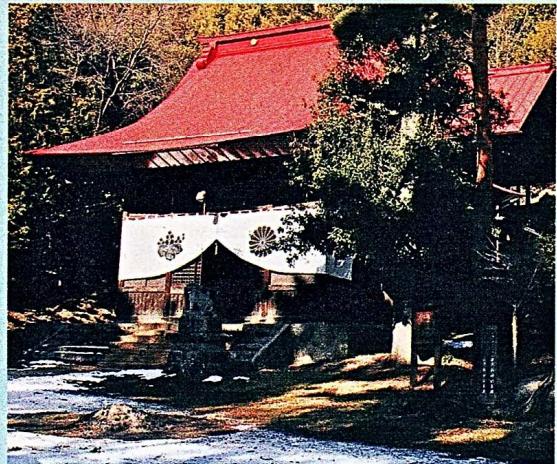


もっと知りたい
ひかるでと

13

波閂科神社



波閂科神社は、延喜式内社の古社で、上山田の城山の南麓、古大木繁る杜に鎮座していく、女沢川の沢北地区の氏子皆の崇敬を集めている。

祭神は、天照大神と豊受大神、日本武尊の三柱である。社記抄「延喜式内郷社波閂科神社要覽」によると、「天照大神ハ日本武尊勧請シ玉フ」とある。西暦一〇〇年頃、日本武尊入信し、麻績から冠着山南麓を大鹿へ抜け見晴らし、この地方をハベシナノ里と命名した。

和銅元年（七〇八）ハベシナ

応仁元年（一四六七）波閂科神社は今地に移遷。この時代山田城（荒砥城）築城。天文二十三年（一五五三）山田城陥落。永禄二年（一五五九）この頃、波閂科神社兵火にかかり類焼した。

天明二年（一七八一）二月三日、ハベシナノ神社こと百社大明神は波閂科神社と改称を許可された。文化十年（一八一三）本殿と拝殿を再建した。

拝殿横には、千曲市指定有形文化財（建築物）波閂科神社本殿の案内板が建っている。

案内板には「本殿は拝殿の裏奥にあり、覆屋の中に納められた、桁行三間（三・二m）、梁間一間（一・一m）、飛地境内には、例祭日に五反幟

越沿道に郡発稻設立、発稻駅設置。神護景雲元年（七六七）この付近に波閂科神社が奉建された。嘉祥四年（八五一）ハベシナノ神社等正六位に叙せられたことが、延長五年（九二七）に公布した「延喜式神名帳」に記載されている。

政策で、地域各所にある諸神を村社等に集め末社として奉祀した。波閂科神社の末社は次の六社である。境内には六社の案内図板が建っている。拝殿の横から宇佐八幡社・住吉社・蚕神社・天神社・金比羅社・稻荷社である。この他に、温泉地区

で祀っている水天宮がある。又、この境内には氏神を祀る石祠が多数ある。

明治十二年（一八七九）に鳥居が再建された。同十四年の「村書上帳」に「社地一町八反六畝二七歩。（中略）飛地境内一〇坪程が、沢北南端字水上地籍十字路の藩治時代の御判場の跡にある。そこには大きな一ノ鳥居が樹立され、道祖神が二体相撲掛、花火掛、幟掛、灯籠掛等諸掛を分担して氏子総出で神嘗祭が行われている。

